

平成 29 年 1 月 10 日

第 4 回遠野市総合教育会議会議録

遠 野 市

平成29年1月10日 第4回遠野市総合教育会議会議録

- 1 開催場所 遠野市役所とびあ庁舎大会議室
- 2 開催日時 平成29年1月10日（火） 午前10時00分
- 3 出席状況

○出席者

市	長	本	田	敏	秋
教	育	長	中	浜	艶
委	員	角	田	直	樹
委	員	千	田	由	美子
委	員	菊	池	崇	
委	員	菊	池	和	子

○説明等のため出席した職員

教育部長兼中高連携サポート室長	澤	村	一	行
子育て総合支援センター所長兼総合食育センター所長	多	田	博	子
市民センター所長	鈴	木	惣	喜
教務課長	畑	山	透	
学校教育課長	新	井	野	邦
子育て総合支援課長	佐	々	木	一
総合食育推進課長	菊	池	幸	司
文化課長	佐	々	木	修
生涯学習スポーツ課長	立	花	信	一

開会・開議 午前10時00分

1 開会

○教育部長

おはようございます。ただいまから、平成28年度第4回遠野市総合教育会議を開催いたします。本日の会議の進行を務めます、教育部長の澤村です。よろしくお願いいたします。

最初に資料の確認をさせていただきます。御案内の内容に一部変更がございますので、御了承願います。本日の次第が1枚、報告資料として、資料No.1 千葉家の整備方針と現状、資料No.2 学力向上施策の成果と課題、資料No.3 市内小・中学校施設の「環境整備プラン」（修正版）、協議資料として、資料No.4 中高連携サポート・アクションプラン（案）、資料No.5 市内保育施設及び児童館の整備についてです。

配付漏れはありませんか。

また、本日の会議は、遠野市長、教育長、教育委員は角田直樹委員、千田由美子委員、菊池崇委員、菊池和子委員、全員の出席となっています。

それでは、最初に遠野市長からごあいさつをいただきます。お願いします。

○市長

みなさん、明けましておめでとうございます。平成29年スタートしまして、今日が1月10日、あっという間に10日経ってしまいました。

1月2日は遠野高校イレブンが、来年国体を開催する愛媛県代表松山北高校相手に堂々と戦い、初戦を突破し、私たちに元気をもたらせてくれました。3日には前橋育英高校との戦いでありましたが、勝利の女神があと少しほほえんでくれたならば、勝てた試合を見せてくれました。15時からの録画中継で、既に結果は知らされておりましたが、テレビの前で手に汗握る状況の戦いでした。アナウンサーが、遠野はまちぐるみで、このイレブンを応援していると何度も話していました。そして小学校、中学校、高校とサッカーを通じて有望な選手を集めた、152人もの選手を抱える大きなチームと堂々と戦い、東北の野武士と実況で言われておりました。必死で応援しましたが、勝利の女神がほほえんでくれなかった残念な結果になってしまいました。まさに全国を相手に堂々と、遠野の底力を示した遠野高校サッカー部の諸君だったと思います。

また、1月7日には、遠野緑峰高校の同窓会の総会に出席いたしました。100名近い同窓生が集まり、高校再編問題にどのように立ち向かうかということと、同窓生の熱い思いがひしひしと伝わってきました。学力向上とさらに魅力ある高校づくりといったものが遠野にとっても大きな課題となっていますが、昨年一年を振り返ってみても、若い方大変な活躍が目立ちました。46年ぶりの岩手国体も、まさに爽やかな戦いの中成功裏に導いたのは幼稚園、保育園児、小学生、中学生、高校生であったことでもあります。遠野の子どもたちが分け隔てなく、それぞれの役割分担をしながら選手の方々を応援してくれました。それを指導した現場の先生方の力、保護者のみなさんの力もですが、それにきちんと受け答えする生徒の姿に、改めて我々は責任を感じ、また一つの行うべき課題は何なのかを見出していかなければならないと思っているわけでもあります。

税を知る週間の中におきまして、遠野中学校の佐々木英鈴さんが7000校近い応募の中から、堂々の財務大臣賞という偉業を成し遂げたことは、学力の面においても大きく光る生徒の力だったのではと思います。

遠野ケアイノベーション会議という若い方々の動きが非常に活発です。福祉と介護を活発にという取組です。福祉、介護の現場は大変な仕事なわけでもあります。それを魅力のあるものにしてという取組の中で、新たな価値を見出す仕組み作りを若い方

が積極的に立ち向かっているということが、昨年形になって表れてきています。

今日が第4回目になりますが、総合教育会議といたしましては、昨年の1年間を振り返りながら、間もなく平成29年度の当初予算の本格的な編成作業が始まります。1月の日程を見ましても、市長査定が入っております。厳しい財政事情をどう切り抜けるのか、また、タイミングを失しない形で、ピンポイントでかつメリハリを付けるような予算編成を行わなければならないとなれば、何を優先にし、何を緊急課題とし、何をもっと議論しなければならないのかということ、この総合教育会議の中で整理整頓しながら、限られた財源の中でやりくりもしていかなければと思っております。

特に、この若い方々の活発な動きを、次の10年、20年、30年にどう繋いでいくのかというのが、我々に課せられた大きな義務と責務ではないかと思っております。

そこで、今日の総合教育会議では、1点目は、当市の貴重な観光資源であり、財産でもある国指定重要文化財の千葉家曲り家、改修工事の現状と今後の方針を文化課から報告をいたします。これはいろいろな方から言われていますが、なぜ10年もかけるのだと。10年かけずに3年でやるというのであればそれでやりますが、やらなければならない課題が沢山あるのです。そうなれば、千葉家のプロジェクトは次の100年、200年に繋ぐ大きなプロジェクトなわけで、その100年、200年の時間で考えれば、10年はあっという間なのです。この千葉家が現在の姿になるまで10年かかったというのであれば、次の100年に繋ぐためには10年かかる。そうすれば財源もやりくりできるという話をしながら、利活用について、考える市民のみなさんの動き、そして萱場を何とか地元の中で確保しようという自主的な動きも市民のみなさんの中に次々と出てきています。しっかりしたものにすることによって、ただ、予算がつき、財源の確保ができれば次は業者に全部お願いすればできるという考え方では長続きしません。どのように市民のみなさんの力を巻き込み取り込み、自分たちの力で復元させたのだという自信と誇りを持ってもらうことが大事ではないかと思えます。市役所、行政が全てのことを行う取組は長続きしません。みんなの力で形にしていく仕組み作りが大事だと考えておりますので、そのような認識で、みなさんには報告を聞いていただければと思えます。

二つ目は、第2回目のテーマになりました、教育行政の大きな目的の鑑と言える、学力向上、これは大きな一つの取組になります。のちほど教育長から報告をいただきますが、遠野市でも視察を行いました、学力日本一の秋田県の東成瀬村の教育長が遠野市に来て公演をするということ聞いております。10年以上の取組の経過があったと聞いております。そのような中で、東成瀬村という小さな村が10年以上コツコツ積み上げてきたものが、遠野にとっても大きな参考になるのではと思っておりますので、学力向上の取組につきましても、進捗状況と結果、課題を学校教育課の方から説明をいただきたいと思えます。

三点目は、先ほども確認がありましたが、市内小中学校の施設整備環境整備プラ

ン、これはお金がかかることであります。しかし、お金の話ではなく、いかに知恵と工夫を持ち込むのかということ問われることでもありますので、再度の検討の結果を踏まえまして、変更した部分について、教務課から説明をいただくことにしております。

今回、みなさんに協議、調整していただくテーマとして、2つの項目を取り上げています。1つは県立高校再編に係る遠野高校、緑峰高校の魅力ある高校づくり応援事業のラストチャンスとなっています。我々に残された時間は今年1年ということになります。先般、教育長からこの3月の中学校の進路指導の結果報告がありましたが、かなり厳しい数字であります。約4割弱の生徒が市外の高校を希望しているという現実を突きつけられております。7：3と見るか6：4と見るのかと言われれば、数字的には微妙ですが、4割は市外の高校に進むという厳しい現実の中で、我々は高校とどのように連携を取りながら、魅力ある高校づくりを目指すのかという課題として捉えなければならない。3割と4割とでは全く違います。4割を3割に、3割を2割にという方向にどのように持って行くか。

年末の日本経済新聞で、鹿児島県の取組に、魅力ある高校という取組の中に自治体も高校が再編されては大変ということで、高校を残さなければならないと打って出た手が、有名大学に進むという結果を得たならば、市から100万円というお金を支給するという取組を行うとの報道があり、非常に複雑な思いで見たわけではありますが、魅力のあるということは、そういうことなのかと。そこまでしなければ魅力のあるという形にすることができないという現実、ある意味、冷静に我々は目を向かなければならない。この高校再編の問題も、遠野の問題だけではないということです。

少子化という人口減少という時代の流れにあって、いずれは遠野、久慈、宮古だけの問題ではなく全県の問題になってくるとなれば、高校教育のあり方、財源負担の問題、交付税の中で、各県が県立高校だから、それぞれの考え方でやればいだろうという考え方で、果たして本当の教育というのは成り立つのかということ、我々大人が真剣に考えなければならない。日本が明治、大正、昭和という大変な時代の中で経済国家の仲間入りをしたというのは教育の力だと、もう一度考えながら地域のあり方、都市と地方のあり方、岩手、日本のあり方ということを考えてみた場合、高校教育のあり方を根底から議論していかないといけないのかなと思うわけではありますが、なかなかそのようにいかない、志願者数、数合わせという議論がまかり通っているということにもどかしさを感じますが、それが現実なのであればどうするかということを考えていかなければならないのかなと。そのような中における高校再編計画の魅力のある高校づくり、さらには市民会議の皆さんからの意見も出てきておりますので、委員の皆さんからもそういった視点に立った意見をいただければと思います。

もう一つのテーマは、市内の保育施設、児童館の整備についてです。「子育てするなら遠野」という中で、もがきながら、どういった環境を作っていけばいいかと取

り組んできております。かすかな手応えも感じ始めています。保育施設の老朽化、児童館、児童クラブ、さらには小学校との連携、子どもの育ちという環境、拠点化を方針に持ちまして、具体的には平成29年度に附馬牛保育園、児童館の連携の中で一体型施設についての議論をしているところでございますので、委員のみなさんのご意見もいただきたいと思っております。

あとは、それぞれ報告という形になります。大変なボリュームの資料になります。論点が絞られた資料を提示しておりますので、それぞれに忌憚のない意見を交わしまして、29年度の予算の中に市民のみなさんの負託に応えるような、「子育てするなら遠野」というものを具現化し、具体化し、夢と希望を持ちながら、子ども達の夢を実現させようと頑張っている保護者のみなさん、地域のみなさんのための答えを見出していかなければならないと思っておりますので、よろしく申し上げます。

なお、年末の27日に、駆け足で、県の医療局長、教育委員会等を回りました。医療局の方からも子育てという切り口の中の環境づくりにおきまして大変心強い話をいただきました。また、教育委員会に立ち寄りまして、雑談のようになってしまいましたが、遠野として振り上げた拳をどうするか、担当課長と話をしましたが、ただ振り上げるだけでなく、子ども達をどのようにという冷静な議論をお互いに誠心誠意話合わなければならないことを、我々なりの考えをまとめていかなければならないのかなと、年末の挨拶回りの中で感じたことを申し上げたところでございます。

少し長くなりましたが年初めでございます。それこそ遠野の子ども達のために、それに期待している保護者のためにも遠野の活力といったものを示すためには、子ども達の力を必要としなければと思っておりますので、様々な、執り行う、取り組むべき課題につきまして、お互い確認し合いたいと考えておりますので、宜しく願いいたします、挨拶といたします。

○教育部長

ありがとうございました。遠野市総合教育会議設置要綱第4条第1項に基づき市長が議長となりますので、会議の進行をお願いしたいと思います。それではお願いいたします。

○市長

それでは、報告事項（1）の千葉家の整備方針と現状について報告をいただきます。

○文化課長

それでは、千葉家住宅保存修復工事について御報告させていただきます。資料の方は平面図、工程表の2枚配付してございます。画面の方にも映っておりますので、確

認しながら御覧いただきたいと思います。

説明に入ります。千葉家住宅保存修復工事につきましては、委員の皆様はすでにご存じのとおりと思いますが、発注が昨年6月20日の着工ということで、発注時点で業者が決まらず時間をロスしてしまいましたが、発注、着工することができ、現在に至っております。

今年度は仮設道路の設置、解体した土台等を収める保存小屋の建設等の共通仮設工事、はせ小屋、付属のトイレ、鳥小屋の全解体、土蔵・石蔵の部分解体を行う予定になっております。平面図を御覧ください。

(平面図を基にした工事説明)

今年度、設計会議についても進めてきていますが、設計会議のほかに地盤調査も並行して行っております。前回の会議でも申し上げましたが、今回のこの事業は、国の補助事業を活用して事業を進めております。平成28年度の部分につきましては、国庫補助事業の計画変更承認申請をすでに行っておりまして、国の方からすでに承認をいただいております。今年度の部分においては減額となっており、先ほど申しました、6月20日着工ということで若干遅れたことと、施設の細部を見直しまして、どの施設を優先的に解体していくか検討した結果、見直しということになりました。

工程表を御覧ください。工程の変更につきましては、今年度に全解体を予定しておりました土蔵石蔵ですが、平成30年に見直しし、平成30年に予定しておりました大工小屋について、痛みが大分進んでおりますので、平成29年度に前倒しして行うことといたしました。土蔵石蔵につきましては、今年度実施した地盤調査、部分解体による破損状況の結果等を勘案しながら再度、解体の範囲を考えたいこともあり、年度を変えたということです。

大工小屋の前倒しについては、破損が著しく倒壊のおそれがあることから、早目に解体した方が良いということから、前倒しをしたということでございます。

共通仮設工事の変更につきましては、工事を効率的に円滑に進めるために、敷地の東側に防災用道路を建設していますが、それを利用して工事を進めるために防災用道路から千葉家の敷地に繋がる橋を新たに架けて工事に利用するという変更を行っております。

今後の進め方ですが、全体の工程を考えまして、全体計画では平成31年までに全ての建物の解体を完了させ、引き続き現状変更の申請、実施計画を行って組み立てに取り掛かる予定になっておりますが、全ての建物の現状変更、修理方針を同時に進行すると様々な作業が一点に集中してしまうおそれがあり、元々千葉家の敷地は様々な建物が密集して建っていることから、効率良く工事を進められないこともあり、これらの作業をできるだけ、ばらつかせて進めていきたいと考えております。稲荷社につきましても、今年行いました地盤調査の結果で、地盤が軟らかいとの結果から、方法を

見直さなければならなく。

また、納屋の石垣工事についても、難しい工事でありますので、発注の中に含まれていますが、余裕を持って進めたいという施工業者からの意見もありまして、その辺りも見直していきたいと考えております。

冒頭、市長からもありました、委員のみなさんからの御意見、地元の方々の思いも加味しながら、検討を進めてまいりたいと考えております。

工事費につきましては、先ほど平成28年度分につきましては減額という話をしましたが、現在発注している5年分の事業の中で調整しながら、増える年等ありますが、全体的に変更のない金額で進められるということで、現在のところ進められているところです。以上で報告を終わります。

○市長

報告事項（1）千葉家住宅の保存修復工事の計画についての概要の説明がありました。平成27年度を初年度に平成36年度までの長期プランであります。じっくりと工事をしながら、光り輝くものを100年、200年後に残すという壮大な計画でありますので、皆様にも御理解をいただきたいと思えます。

ただいまの報告につきまして、御質問、御意見等ありますでしょうか。

○角田委員

前に教育委員会定例会で聞いたことですが、解体しなければ見えない部分や建築当時の変遷であるとか、文化的な継承の意味で見たいという方が沢山いらっしゃいますが、建築途中の状態を市民や観光客に公開することを予定されているのであれば、その内容についてお聞かせ願いたいと思えます。

○文化課長

今、委員がおっしゃったとおりだと思います。

今現在、工事の進行に合わせて、遠野テレビに委託をしまして、その都度記録の映像を収めていただいておりますし、節目節目に遠野テレビで放送していただいております。具体的な中身につきましては、工事中の公開的なものをいろいろ取り組んで行きたいと、工事関係者とは話を進めておりますし、文化課の内部でも話をしておりますので、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

○市長

その他にありますか。

では、千葉家の保存計画の概要について御承知いただければと思います。

それでは続きまして、報告事項の二つ目になります。第2回目のテーマでもありま

した学力向上の成果と課題について、学校教育課長から説明をお願いします。

○学校教育課長

学校教育課長の新井野です。よろしくお願いします。

私からは、平成28年度学力向上施策の成果と課題について御報告いたします。今年度は、大きく4事業8施策に取り組みながら学力向上に努めてまいりました。ここからは考察として、今年度の学力調査等の結果を示しながら成果と課題を報告します。

初めに考察1として、全国標準学力検査の結果についてです。この調査は毎年4月に実施し、小学校2年生から中学校3年生まで、小学校1年生を除く全ての児童生徒の結果になります。本市では、この調査結果をまちづくり指標として取り組んでいます。平成28年度の資料は小学校53.8に対し、今年度の結果は52.8で1ポイント及びませんでした。昨年度に比べると0.1ポイント伸びています。中学校は指標48.5に対して47.9で0.6ポイント及びませんでした。昨年度と比べマイナス0.6ポイントとなっております。

続きまして考察2を御覧ください。これは10月に実施した岩手県学習定着度調査の結果についてです。対象は小学校5年生と中学校2年生です。小学校5年生は4教科、中学校2年生は5教科になります。平成28年度の小学校の結果は64.1で県平均との差がマイナス2.9ポイント、前年度より差が開きました。中学校は47.6で県平均との差がマイナス3.6ポイントで県平均との差が縮みました。小学校中学校の各教科の県平均比は資料のとおりになります。小学校は理科、中学校は数学、英語の順に課題があります。

続いて、考察3-1を御覧ください。これは今年度までの4年間の県学力状況調査の質問紙の結果です。授業で目標が示されているかの結果を見ると、小学校で年々上昇し「そう思う」の割合が今年度は68%でした。県よりも5ポイント上回りました。同じように中学校でも年々上昇し、今年度は76%で県よりも10ポイント上回りました。この4年間で目標や課題が示され、児童生徒が見通しを持って主体的に取り組める授業へと変わってきているのが見て取れます。

考察3-2を御覧ください。こちらも小中学校とも年々増加し、90%以上の児童生徒が授業の最後に振り返りを行っていると感じており、こちらも授業改善が進んでいる様子が見て取れます。また、振り返りをしっかり行うことが家庭学習の充実にも繋がることから、家庭学習の意欲と質を高めるためにも必要な要素です。

続いて考察3-3を御覧ください。「学校の授業以外で一日どれくらい勉強しますか」も、少しずつではありますが、年々上昇しつつあります。今年度は小学校5年生で63%、中学校2年生で68%が一時間以上勉強していると回答しております。

続いて考察4を御覧ください。10月に実施の県の学力調査の中学校の数学の結果です。市全体の平均は微増ですが、中学校で初めて県平均を上回る学校が出てきました。

た。

続きまして考察4を御覧ください。同じく10月に実施した中学校2年生の英語の結果です。市全体としては、こちらも微増ですが、B中学校のように大きく伸びて県平均に近づいている学校もあります。小中学校全体では学校ごとに見ると、県平均を超えている学校、この教科では超えている学校がたくさんあります。徐々に中学校でも、教科によって県平均を超える学校が出てきております。

考察5を御覧ください。中学校3年生の英語力の状況についてです。この調査は毎年全国規模で行われている調査で、12月1日を基準日とした中学校3年生を対象に行う調査です。今年度は生徒数232人のうち、調査を受けた生徒が230人でした。うち、英検を受検したことがある生徒は53人、全体の23%、3級以上を取得している生徒が18人、7.8%、3級以上の力がある生徒が36人、15.7%という結果でした。かなり低い数字に私もショックを受けました。現在、次年度の英検取得を目標に据えた、英語力向上の取組について計画しているところです。今後も英語教育に力を入れていきたいと考えております。

続きまして、今年度の成果を御覧ください。成果の1として、全国標準学力調査を指標とした中学校区ごとの授業改善の取組が日常レベルで展開されており、先生方の授業改善への意識が高まってきています。

成果の2として、授業改善への意識の高まりとともに、学校公開研究会も質の高い研究発表と研究協議が行われております。

成果3として、今年度新規に立ち上げた特定教科学習支援員が配置した学校で、模索の末、有効に活用されるようになってきており、成果が出始めております。

次に次年度に向けてですが、1点目、授業改善の取組をさらに進め、児童生徒が「分かる」「できる」を実感する授業を目指し、質を高めていきたいと考えております。

2点目は家庭学習の充実です。具体的には小学校5年生以上の児童生徒の80%以上が1時間以上家庭学習を行うことと、1日2時間以上のメディアダイエットを目標に学校、家庭、地域等と連携しまして取り組んでいきたいと考えております。

3点目は各種調査から見る各校の課題を解決するための取組です。昨年12月12日から13日にかけて校長ヒアリングがあり、その中で学力向上の取組について説明いただいた後、教育長から質問紙と点数の相関からの各校の課題について直接御指導いただきました。課題は各校により様々ですが、4月のNRTと全国学調に向けて個人指導や、さらに伸ばすための授業改善、家庭学習の取り組みを現在行っているところがございます。次年度もこのような形で、学校と教育委員会と協力しながら進めていきたいと思っております。

4点目は特定教科学習支援員数学の継続です。授業の支援と家庭学習の支援の両方から改善を図って参ります。

最後5点目です。次年度から英語力向上に力を入れ取り組んでいきます。具体的には英検を活用した授業を立ち上げ、生徒一人一人が3年間の到達目標を持ちながら取り組める体制を構築したいと考えております。

以上、説明を終わります。

○市長

学校教育課長から学力向上施策の成果と課題ということで非常にコンパクトにそれぞれの取組の状況、それに伴っての数値的なもの、今年度の成果を3項目、次年度の課題5項目を提示され、手応えを感じながら進んでいるという報告から感じ取ることができました。委員のみなさんから、ただいまの報告に御意見や確認したいことがございましたら、よろしく願いいたします。

○和子委員

遠野では、数学の特定教科学習支援員ということで、各中学校に配置しているということですが、学校で工夫して活用されたと聞きまして大変良かったと感じました。その中で県平均に迫る学校があったとありましたが、具体的にその学校で支援員さんをどのように活用したのかというのを教えていただきたいのと、活用法が効果的だった場合、他の学校にもといった、交流がなされているのかも聞きしたいと思います。

○学校教育課長

授業の中で、支援を必要としている子どもの支援をしているわけですが、ここについては教える教科の先生方との綿密な打ち合わせを行いまして、子ども達がここで引っかかるだろうと、であれば、ここをしっかりと支援しましょうと明らかにしながら連携していることが一つ。もう一つが家庭学習の支援で、子ども達が今日の勉強を学ぶためには小学校のこの部分がきちんと理解出来ていなければ、そこでつまづいてしまう状況になりますので。今までの復習的なものを計画的に、これから習うものにかぶせながらしっかり復習させるというものを合わせながら取り組んだ成果だと聞いています。

○和子委員

家庭学習を見込んでということですので、わからなかった子どもたちもこれから頑張ろうという気持ちが少しずつ出てくるのではないかなと思います。

○市長

その他ありますか。報告ということになります、繰り返しのようになりますが、このと

おり、成果も上がっているし、手応えもあると、成果をまとめ次年度への課題もきちんと提示しているわけですから、これを全面的に応援していきたいということによろしいでしょうか。頑張りましょう。

続きまして、報告事項の3点目に入らせていただきます。修正版ということで学校整備について、前回の総合教育会議で議論した中でみなさんからいただいた意見を踏まえながら、修正案としてまとめておりますので、これに基づき、平成29年度の当初予算の中でどのように具現化するかという作業が待っておりますが、ここで合意形成をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○教務課長

それでは、私の方から、前回御協議いただきました、市内小中学校施設の環境整備プランの修正版ということで申し上げます。

最初に、前回の提案に対する意見ですが、児童生徒の安心安全の確保、緊急性のある内容に関しましては、計画を待たずに対応を心掛けてほしいということでした。将来の少子化を避けられないというのは市長からもありましたが、各校に必ず一つずつ整備するというところにこだわらず、子どもたちのためを考えて共同運用という方法も考えられるのではという話でした。それから、韓国の水難事故を例に、韓国ではほとんどの人が泳げないのに対し、日本では水泳を授業に取り入れている。小学校の授業に時間を割いているという水泳が大切であるという提案をいただきました。

前回は示しました、校舎、体育館、プールに関しては、市内に古い施設が残っていることで、整備を進めていかなければならないということがございます。これに対応する実施計画ですが、既存の施設等の整備について、毎年度計画に登載しています。市長からありましたように、財源等がうまくついていない、常に込み入った状態で先送りされないようなものをするというのが現状でございました。

そのうえで、前回意見のありました少子化の問題であります、教育委員会で作っております、第2期教育振興基本計画から平成37年までの児童生徒数の推計を並べたものでありますが、小学校において、50人を切っている学校は赤く、それに近づいている学校は黄色く、中学校に関しましては、100人規模を切っている学校は赤く、それに近づいている段階を黄色い形で示しております。非常に10人、20人台といった形で非常に将来的には学校運営そのものが厳しいのではないかという状況にあるところがございます。これを踏まえて、先ほどありました実施計画にこだわらず、今回、現状にあったプランを作っていくって対応しようというのが前回までの話でした。

修正点になります。前回の中で鱒沢小学校を例にしまして、非常に損傷が激しいこと、体育館の修理の話、雨漏りの話等出てきましたが、鱒沢小学校に関しましては実施計画の中では取り上げられてはおりませんが、損傷が激しいことから、もう一度、学校、地域、教育委員会が一緒になって鱒沢小学校のあり方について考えるべきでは

ないかなという思いでございます。鱒沢小学校の基本方針もしっかり固めようと、子どもが少なくなりますので、複式学級のままを続けるのか、他の学校と一緒に協力してやっていくのかを含めまして、地域と一緒にどうやって行くかをもう一度検討しようというところを校舎の整備プランの中に加えさせていただきました。

それから、体育館の整備に関しましてですが、後ほど子育て総合支援課から説明があると思いますが、体育館の関係では、児童館、地区センター、小学校、中学校がありますが、その近くに児童館を設置したいという案になっております。地区センターの近くに置く、学校の近くに置く、その辺の中身も併せて検討していかなければならないと思いますし、体育館に関しましては、子どもたちが放課後遊べるように、児童館でも使用できるような可能性も検討していて、併設して広域的に使うプランもあるのではないかとということで、変更と書いてありますが、検討するというので今回提案させていただきます。

次に、前回時間を割きました、プールに関しての説明になります。上郷小学校の現状ですが、前回話しましたところをさらに詳しく説明しますと、循環パイプから水漏れが起こっており、常に新しい水を供給しないとプールの水面が下がってしまう、またコンクリートの劣化もあり、何かしらの手当をしていかなければならないというところで前回説明いたしました。どうしても財源の話は避けて通ることはできませんが、財源がつくまでの当面の間、学校どうしの共用、市民プールの活用等を試行すべきでないかという提案を前回させていただきました。当然これには学校間での時間の配分が必要になりますし、移動するのに時間のロスが生じる、限られた授業時間の中でそういった時間のロスをどうするのか、水泳大会等の練習環境で格差が生まれないかという課題が出ましたので、これに関して説明をさせていただきました。それを基に財源がつくまで当面の間は共用という形で、図面の案を前回提示させていただきました。近い学校どうし、市民センターのプールを活用しようということで、特に上郷小学校は2学期の間、市民プールを活用して試行してございますので、その結果をまとめてございます。平成28年度の2学期だけ実施いたしました。市民プールを2回活用しています。1年生から3年生までの低学年、4年生から6年生までの高学年、この3学年を一緒にして、3時間程度時限を調整しまして1回で実施した内容でございます。長所として、授業をまとめることができたので着替えにかかる時間が1回で済んだこと。短所としては、学校から市民プールまでの移動時間のロスがあったこと。着替えの時間の短縮を考えると、移動の時間よりはメリットが大きかったという結果でございます。特に上郷小学校の場合は学校の中で着替えて、グラウンドを横断してプールまでいかなければならないので、そういった着替えの時間のロスは短縮できたと思います。それから市民プールは設備が整っており、温水プールですので、子どもたちから好評だったという話がありました。上郷小学校プールの水は冷たく、それに比べると授業をゆっくり進めることができ、非常に良かったとのことでした。た

だ、2学期だけの試行でございましたので、1学期から通年で行うのであれば、相当なカリキュラムの工夫が必要となるのではと思います。全般的に生徒から好評でしたので、もう少し工夫すればうまくいくのではないかという学校の感想でした。ただ、短所として地域への開放ができていないという課題もありますので、そういったところも含めて、プールの整備プランの案といたしまして、当面の間、各学校間での共有をしなければならない現状にあると思います。共有するのであれば、学年をまとめる、単元をまとめるなどして、カリキュラムに工夫をして対応していかなければならないと思います。市民プールの活用に関しましては、教育的なことではありますが、市民センターからは、比較的市民のあまり使わない時間に学校が入る余地があるとの意見をいただきました。それから、整備の必要な学校プールよりは、設備が整っている市民プールのほうが、水泳の教育という面では良いのではないかということですので、積極的に活用していきたいという考えでございます。共有が難しい学校のプールもありますので、財源等の問題で新設が難しい場合は、出来るだけ改修という形で対応していきたいと思います。改修で現プールを活用していくと方針として提案させていただきます。

もう一つ問題としてありました、遠野東中学校のグラウンドの水溜まりや土淵小学校、鱒沢小学校のステージ幕、垂れ幕等の劣化を問題としておりました。経年劣化が著しい状況にありますので、対応が必要と考えております。従来であれば、新たに施設を整備した場合は、市で垂れ幕等を整備するのですが、現状ではそれが難しい状態で、PTA等からの寄付等で新調している学校もありますが、生徒数も減ってきますと、PTAだけでは大変になってくることから、青笹小学校の例を出しておりますが、中庭の活用についてどうにかならないかという相談を受けた後、PTA、地域が共同作業を実施し、中庭をきちんと整備して、様々なイベントに活用できるようにしていただいております。持続性をもってしたという実例がございます。これらを踏まえ、これからは市民協働という考えで、PTAに代わり地域、あるいは市も入って、費用を三者で負担するとか、そういった考えを取り入れてはどうかという内容を提案させていただきます。

最後になりますが、まとめといたしまして、前回いただいた御意見をもとに緊急性のあるものに関しましては当然、計画によらず対応する。大きくなりますと財源を伴いますので、プールの整備につきましては、今後修繕を基本といたしまして、児童生徒数の動向を見据えて改築、改修を行い、財源を探っていく形で、総合教育会議、地域経営会議、教育委員会定例会で連携を図りながら対応していきたいということで提案させていただきます。以上説明を終わります。

○市長

ただいまの報告事項の3点目、市内小中学校施設の環境整備プランということで、

コンパクトにまとめ、それぞれの対応すべき課題につきまして、11月4日の総合教育会議での議論を踏まえての整理したものとして、提案されました。現在あるものに新たな役割を加えるということで、市民プールの利活用。さらには、ネットワークを構築しながら改修をやりくりし、子ども達の環境を整えるという考え方。さらには、市民協働というPTAのみなさんの力を借りながら、行政としての一定の負担も持ち込みながら、より良い環境を整備していくという方針。

まとめの中で3点示されたわけですが、意見、提言をいただき、緊急性のあるもの、安心安全に関わるもの、これらは大事なキーワードですから、市長部局との議論をし、財源を伴うものです。

しかし、このような形で整理させると、財政当局でも判断しやすくなるわけですから、かなりインパクトの強いものとして整理されたのではないかなと思いますし、修繕を基本としていうことですが、このような対応も大事と思っております。11月4日の議論を踏まえての修正案でございますが、御意見や確認したいことはありますか。

最近コスト効果とよく言われますが、例えば、大変な税金を投じながら、コストをかけ道路を整備している。釜石自動車もそうです、何百億というお金がかかっている。立丸峠の2つのトンネルも関連工事含めて100億円かかっている。ただトンネルを掘ればいいのではなく、それをどう利活用するのか。昨日集まりがあり、思うことがあります。立丸峠に約100億円の巨費が投じられトンネルが作られたが、それに合わせて室蘭と宮古港の定期フェリーが就航する。そうすると室蘭で自動車部品がかなり生産されて宮古港に入ってくる。そうすると東日本トヨタの小型自動車の戦略拠点工場である金ヶ崎に遠野ルートが最短距離である。まさに、世界的企業が世界戦略の元に、この道路、トンネルを見据えながら生き残りをかけながらこうなっている部分は、その中で、我々は沿岸、内陸の交流の拠点観光の中で遠野から宮古に北三陸に話をしているわけですが、世界的大企業がそのような利活用をすれば、例えば、市民プールも大変な巨費を投じて環境整備したわけですから、子どもたちのために、この資料を見た時に思わず頷いてしまいましたが、このプール整備プランの中の長所に「生徒からは好評」と書いてある、そういうものの見方をしていかなければならないのかなと、この資料を見て感じました。みなさんの方から何かご意見ありますか。

○千田委員

このプール整備プランで、あるものを使うということになりますが、私は非常に良いことと思います。学校として短所にカリキュラムに無理が生じるとありますが、やはりプールを使用する期間は限られていますし、子どもたちは夏になったら入りたいと思いますし、そこを夏休みも市民プールをどう使うのかということも問題になってくるとは思います。市民団体で水泳を教える団体もありますから、それこそ市

民協働で、授業では足りない部分を補うような、遠野ならではの仕組みがあっても良いのではと思います。以上意見です。

○市長

今、千田委員からありました、何か仕組みがあってもいいのではとありましたが、課長からコメントありますか。

○教務課長

相当な工夫が必要かと思しますので、たくさんの御意見をいただきながら考えていきたいと思えます。

○市長

まさに、新たな仕組みが大事だと思います。他にありますか。

○崇委員

土淵小学校、鱒沢小学校の垂れ幕についてですが、緊急性があるものや安全に関わるものにお金を先に使わなくてはならないと。土淵小学校と附馬牛小学校と見学する機会がありまして、これから卒業式、入学式がある中で子どもがどう思うかはわかりませんが、PTA、親としてこの垂れ幕で卒業、入学させるのは心苦しいと親として感じる場所であると思えます。全部市に負担してもらおうという話ではなく、PTAからも。PTAが少なくなっていることで負担するのが大変という話が出てきておりましたが、方法を模索して、早目に対処してあげないと、垂れ幕の劣化、破れたまま卒業式の写真が残ってしまうのは、かわいそうな気がします。いろいろな方法を模索しながら、今であればネットから資金を調達する方法もありますし、民間であればファンディング等の方法もありますので、様々な方面から子どもたちにとって良い方法を考えられればと思えます。以上です。

○教務課長

企業協力があれば、そういった手もありますし、そういった働きかけもしながら学校、地域とも相談しながら、できるだけ何らかの対応をしていきたいと思えます。

○市長

他にありますか。非常にわかりやすい、理解しやすいプランとしてまとめられましたので、これを踏まえ、総合教育会議の中で議論し、こういう修正案になったことを踏まえて、できれば平成29年度にどのように予算化するのか、あるいはもう少し検討するのかというのを財政当局と教育委員会で議論してもらおうことでよろしいでしょう

か。

それでは、報告事項が以上3点、それぞれ論点が整理された資料の中で報告を聞くことができました。

それでは協議事項に入ってまいりますので、資料No.4の高校魅力化プラン、市内2校の存続を目指してという取組でございますので、この取組について、意見交換をしてまいりたいと思います。

資料4につきまして、説明をお願いします。

○教育部長

高校魅力化アクションプラン策定に向け、中高連携サポート室が中高生及び保護者アンケート調査に基づいて取りまとめたプラン案について、その概要を説明いたします。

1Pを御覧ください。初めに6月に実施しましたアンケート調査の結果について説明いたします。最初に中学3年生の調査結果です。

市内・市外の高校進学希望者の状況については、今年度第1回総合教育会議で報告したとおり、97名（約43%）が市外の高校、125名（57%）が市内高校を希望しております。希望する学科については、約76%が普通高校、22%が専門高校を希望しております。高校進学先を選択する上で優先する基準は、部活動12%、進学実績11%、自己実現・通学の利便性・学力が見合う高校・将来の仕事を見据えてが約10%となっており、部活動、進学・就職実績の充実や学力の向上などの魅力化が求められております。

2Pを御覧ください。高校進学の主な相談相手は、母親が約30%、父親が21%と5割が両親に相談するとしていることから、進路決定に大きな影響がある保護者への情報提供とPRが必要です。高校を選ぶ時に困ることでは、高校のことが分からない20%、高校で何をしたいか未定18%で、高校に関するきめ細かな情報提供や中高生の交流を通じた高校生活の理解が必要と考えます。

3Pに進みます。中学3年生の保護者に対する調査結果です。市内・市外の高校進学希望は、市外希望が29%、市内希望が71%と中学生の希望と比較して市内高校への進学を希望している割合が高い状況にあります。高校を選ぶときに困ることでは、高校のことが分からないの回答が12%あったほか、進学させたい高校の情報をよく知っているかの設問では、36%の保護者が「よく知らない」状況にあるとの結果でした。

4Pです。高校について知る情報源としては、中学校で行う高校説明会が30%、高校生を持つ親からが27%、高校のホームページが24%、高校のパンフレットが7%と、説明会でのプレゼンや資料、インターネットを活用した情報の充実がPRの重要なポイントとなります。

5Pに進みます。高校生への調査結果を説明します。現在、在籍している高校に進学して良かったか、の設問に対し、緑峰生の78%が、遠高生の69%が良かったと回答し

ており、良かったと思わないと回答した割合が、それぞれ3%、6%と両校ともに高校生の満足度は高い状況にあり、主な理由は、緑峰高校、遠野高校それぞれ以下のとおりとなっています。

6 Pです。高校の魅力向上に必要なものとしての意見が多かったものは、クラブ活動への支援、授業（カリキュラム）の充実や課外（外部）講座の充実、通学（交通費）支援などが挙げられております。以上が、アンケート調査結果と結果から読み取れる課題です。

7 Pを御覧ください。12月に行われた期末三者面談後の進路希望状況です。中学3年生232名の進路希望状況は、市外高校希望者が83名（36%）、市内希望者が149名（64%）と6月の調査時点から、若干の改善が見られます。主な進路希望先では、遠野高校は今年度の入学者と比較して伸びておりますが、緑峰高校においては生産技術科、情報処理科ともに減少しております。傾向としては、花巻方面の公立高校進学希望者が増加しており、残念ながら大きな改善にはつながっていない現状にあります。

8 Pからの高校魅力化アクションプラン（案）の概要について説明します。アンケート調査結果・分析を踏まえ、4つのプランにより構成しました。プランNo.1 高校PRプランでは、生徒・保護者、市民向けに地元高校の取組や活動、魅力についての情報の紹介などの事業を展開します。効果的な説明会の開催支援事業として、高校説明会の実施・内容の充実、オープンスクールへの誘導・支援、高校生の出身中学校訪問出前講座などに取り組みます。生徒・保護者・市民向けPR事業として、スマホ版ホームページ「学び場 遠野」の充実、プロモーションビデオの作成、遠野テレビ番組を通じたPR、講演会の開催、高校PR情報紙の発行などに取り組みます。高校行事公開支援事業として、高校文化祭などの行事の積極的な市民公開を支援します。

9 Pに進みます。プランNo.2 高校魅力化推進プランでは、それぞれの高校が取り組む魅力化に向けた事業等に、教育文化振興財団やみらい創りカレッジなどと連携して支援事業を展開します。高校の魅力創出事業では、それぞれの高校の文科省認定スーパーハイスクールへの申請支援、高校生海外派遣支援、新たな高校カラー創出に向けたソフト事業等への支援、地域・企業・大学・研究機関等との連携や研究活動への支援、魅力あるクラブ活動支援などに取り組みます。

高校生進路支援事業として、大学や専門学校への進学や地元就業枠の拡大や事業所とのマッチングとうの就職支援などに取り組みます。

10 Pを説明します。プランNo.3 小中高連携推進プランでは、小中高教職員や中高生の交流機会の拡大を図り、相互理解による地元高校進学率向上につながる支援事業を展開します。学力・スポーツ連携支援事業を進め、小中高教職員の授業交流研修会の実施を通じて、小中高が連携した学力向上や教員間の相互理解・連携を図ります。また、中

高生相互の文化やスポーツの交流事業の推進、クラブ活動の合同練習や指導会などの交流機会の創出と支援などに取り組みます。

プランNo.4 就学・生活支援プランでは、緑峰高校、遠野高校生徒のスキルアップにつながる支援や高校生活に係る費用負担をサポートする事業の展開について具体化に取り組みます。高校生スキルアップ支援事業として、進学・就職に有利につながる各種資格取得に係る検定料の補助に取り組みます。高校生活応援事業として、遠距離通学費や寮・下宿生家賃の負担軽減支援、高校学校給食導入について具体化に取り組みます。なお、特にもプランNo.4については、多額の経常経費や投資的経費による設備投資も必要となることから、さらに財源の確保策や費用対効果の検討・協議を行い、実施可能な事業から着手する方針で進めたいと考えております。

つきましては、本日の総合教育会議や今後の高校再編を考える市民会議及び地域経営会議等での御意見、御提言をいただき、成案に向け作業を進めてまいりますので、よろしくお願いたします。

○市長

高校魅力化アクションプランということで、アンケート調査における中学生の意向、親の意向、情報をどこから得ているのか等を踏まえ、12月末現在の、市内、市外における進路指導の状況。いくらか手ごたえがあったという数字になったと思います。65と35という数字を我々はどう見るか、皆さんにも理解いただいたのではないかと思います。努力していることは数字的に手応えもあったと思います。資料を見まして時代の流れを感じましたが、ホームページで中学校3年生の保護者向けアンケートから、高校についての情報源は、という質問に対して高校のホームページという回答が24.3%。私は改めてそのように感じました。いろいろな情報から判断する中でここから情報を得ているのであれば、こういうものを疎かにしてはいけなと、この数字を見て感じました。また、高校生に入って良かったという数字も高く、これも一つの自信としながら、アクションプランの一つ高校PRプラン、二つ目魅力化推進プラン、三つ目小中連携推進プラン、四つ目として就学生活支援プランとして、組み立ててあります。ラストチャンスという言葉の冒頭のあいさつで使わせていただきましたが、みなさんから忌憚のない御意見をいただけたらと思います。

○角田委員

中学生がホームページとか見ていろいろ調べて悩んでいるのだと、その結果が進路指導状況を見ると、遠野高校、緑峰高校、花巻北高校、釜石高校とここまではこれまでの傾向と変わらないと思うのですが、それ以降のその他高校の21%という、すごく多様化している。おそらく子どもたちの心理が地元以外の学校に行きたいというの

が根底にあって、このような数字が出ているのだと思います。将来の進路だったり、特色があったり、部活でもですが、希望をもってそこに行くということであればしょうがないと思いますが、どうも数字を見ますと、地元の高校に行きたくないという感が見えて、ここを食い止めなければならないと思います。

そのためには、何とか地元に対する魅力を高めることが必要と思います。

確認したいのが、昨年、中学校で行われた高校からのプレゼンテーションで、他の学校に比べて遠野高校のプレゼンテーションに格差があったという話がありましたが、それが改善されるのかどうか、今年2回3回とあるのであれば、改善された内容で子どもたちに示されるのかどうか、確認したいと思います。

○教育部長

中学生に対する高校説明会ですが、去年は6月下旬から7月の中旬にかけてそれぞれの中学校で開催されました。これは、近隣の私立高校を含めた公立高校、私立高校の説明者が学校に集まって、それぞれの高校の魅力を伝え、進学の判断をしていただくために、それぞれプレゼンテーションを行うということでした。

角田委員の御指摘のとおり、保護者からは私立高校等に比べると公立高校の先生方のプレゼンが見劣りするような話が出ています。角田委員がおっしゃった遠野高校についてですが、遠野高校がこれからこう変わるのだよという視点で中学生に話しかけましたが、内容が中学生には難しかったのかなと思います。

また、説明が上手と思われる私立高校については資料がきちんと整理され、見やすく、その高校に行けばどのようなことが実現可能かというような具体例が盛り込まれておりました。そういったことを次の高校説明会に向けて、遠野高校、緑峰高校と調整を進めていきたいと、引き続き支援をしていきたいと考えております。

○角田委員

プレゼンテーションは、各学校に1回ですね。

○教育部長

説明会は、毎年1回ということでやっております。

○市長

では、意見を聞いていきたいと思います。千田委員、菊池委員、和子委員、教育長と聞いていきたいと思います。

○千田委員

私も説明会を見させていただきましたが、ちょっと魅力に欠けるかなというところ

が気になったことでした。文化祭に高校生が来て、いろいろな展示をしたり、努力を感じられましたし、緑峰高校は頑張っ様々な表彰をされていたり、子どもたちの頑張りが見えますが、それが中学生に伝わっているかと言うと、知っている先輩が説明会に来ればですが、知らない先輩が来たところで伝わっているかどうかわかりませんし、進路となれば保護者がかかわってきますので、遠野高校、緑峰高校の魅力を保護者に向けたPRが必要なのではと思います。

アンケートを見ても、高校生からの意見を取っていますが、その保護者からの意見が全くないわけで、ホームページでお知らせするのもいいのですが、遠野みたいな小さな町は口コミが一番広がりやすく、保護者がどう思っているかというアンケートもとっていただいたら良かったのかなと思いました。

来年度、4月スタートして子ども達の進路が決まるのが7月から9月、その半年間でどう伝えていくのか、伝えきれぬのが心配な部分です。そこを煮詰めたり、スピードアップさせたり、工夫が必要なのかなと思います。

○和子委員

市が支援できる部分は、きちんとまとまっていると思います。ただ、高校生のアンケート結果を見た時に、遠野高校の生徒の70%近くが良かったと言っている。ただ、良かったと思わなかった生徒もいるわけで、どうして良かったと思わなかったのかというのを子どもたちから吸い上げて、子どもたちの要望の中に、遠野高校だと授業カリキュラムの充実とありますが、学びたいと思って入ったけど中身が違ったというギャップがあり、そういう言葉が他の子どもたちに伝わり、遠野高校よりは違う高校に行った方が勉強できるという子どもたちなりの考えもあると思います。高校側とどう向き合って連携していくのが課題だと思います。お互いの考えを、市はこういったことをバックアップします、高校は子どもたちがこういったことを要望していますがどうですか。という突っ込んだ話し合いも必要だと思います。県立高校の場合、それも難しいのかなと思います。

○市長

高校側とのことでよろしいですか。

○和子委員

中身に踏み込むことは難しいと思います。カリキュラムとか遠野高校ですと、スーパーハイスクールをやっていきたいので、力を貸してくださいというような話し合いが必要なのではないかなと思います。

○崇委員

部活動に関して、行きたい高校の理由の上位に入っていますが、5番目に花巻農業高校とありますが、西中から花巻農業高校で野球をする子が非常に多かったりとか、今までだったら4番目の釜石高校に空手をしたい子が流れたり、空手に関しては資料にもあるように、これから取組が行われるようですが、サッカーに関しては、育成プログラムを遠野できちんとやって入ってくる。そして上手い子たちは遠野から流れてしまうこともあります。クラブ活動ということで流れてしまう空手、野球など、遠野高校に来てある程度の結果が、全国大会に行けるようなレベルに大人が育成プラン、環境づくりをできるのであれば、子どもたちは遠野でも十分勝負できるという気持ちになればこちらに来てくれるのではないかなど。今現在で即効性があるとは思いませんが、大人側としてそういった取組が必要になるのではと思いました。

先ほど千田委員がロコミの話をされましたが、スマホ、ホームページの取組の話を先ほど知りました。スマホは親のほとんど持っていますし、子どもも持っている子がいます。アンケート調査の中で高校のことがよく分からないという回答がありましたが、高校に入って良かったという子どもたちの声をすぐ検索できて、すぐ見られるホームページを具体的に載せることによって、先輩たちが遠野高校、緑峰高校に入って楽しかった、面白かった、充実しているという声をどんどん載せることで目に触れる機会が増えるのではと思います。迷っている子どもは遠野高校、緑峰高校に行ってみようかなという気持ちになるのではと、即効性の部分でホームページ、スマホの活用する方法が良いのではと思いました。

○教育長

アンケート調査の結果から、高校進学相談の相談相手が母親、父親合わせて50%ということで、親への情報提供を確実にしていく必要があると感じています。市P連と連携しまして、市の取組、支援策を明確に示していきたいと思います。

今、子どもたちへの情報が不足しているのではという話もありましたが、子どもたちへの進路指導についても力を入れていかなければと思います。そして、緑峰高校の情報処理科について何としても20名確保するための取組を、高校と情報共有しながら進めていきたいと考えているところです。

○市長

今、情報処理は何人ですか。

○教育長

14名です。

○市長

今、委員のみなさんからアクションプランについて御意見をいただきました。中高連携サポート室を立ち上げて、アンケート、進路指導の部分がという声がありました。最近では高校のさらなる魅力づくりが必要という声が聞こえてきます。これがうまくいけば、かなりの数字として6：4を7：3、7：3を8：2へ持って行くことは、数字的には可能なわけですから、一年間の取組の結果の中からアクションプランの4つをどう行動に動かしていくかということになると思いますので、委員のみなさんの意見を踏まえながら、事務局から総括したコメントをお願いします。

○教育部長

委員のみなさんからの意見の中で、保護者に考慮し、保護者の口コミ等を大事にしていかなければならない、あるいは情報源でありますホームページ、スマホであれば口コミを書き込みできる仕組みもあります。連携サポート室でも口コミを書き込める仕組みづくりをしているところがございますし、親同士が情報交換できる機会等も作っていただける仕組み作りを進めていきたいと思っております。

クラブ活動につきまして、空手の取組について、地元の空手道協会の協力を得ながら、両校に進学して空手に取り組みたいという生徒への体制づくりについて受け入れましょうという、細かい協議については、これから調整する部分はありますが、来年度から空手に取り組みたいという生徒を受け入れるということは、両校から確認は取れているところでございます。

いずれにしても、高校生のアンケート調査の中でも良かったと思わないという理由も、個々に記載いただいております。このアンケート調査の結果についても両校の校長先生に情報提供しております。その改善策についても、高校の魅力化についても、さらに両校と連携を密にして組み立ててまいりたいと思っております。

○市長

みなさんの意見を踏まえ、事務局から報告をいただきました。付け加えまして、遠野高校の岩淵校長、緑峰高校の阿部校長からも、教育委員会に中高連携サポート室を立ち上げていただいて非常に情報共有でき、市が何を考え、何をしようとしているかが良く分かって非常に助かっていると、連携を我々としても強めていきたいと新年交賀会の時に両校の校長先生からコメントをいただいておりますということを付け加えまして、きちんと連携を深めアクションプランを形を持って、ラストチャンスという来年に14人を20人、20人を25人という数字に魅力のある高校という方向に、2校体制を存続という結果を得たいものだと思っておりますので、委員のみなさんのさらなる御協力をお願いしたいと思います。

正月に私の先輩に会いまして、お孫さんが岩手県でスーパーキッズに選ばれたと、東京の高校に進学することになったとのことでした。本人が行きたいと、高校も

是非来てほしいと言われているし進学させることにしたとのことでした。岩手県がスーパーキッズで色々やろうとしているところに有名私立高校に持っていかれてしまう。岩手県は、ぼやぼやしてられないという話です。それも現実であると踏まえながら頑張っていきたいと思います。時間が押してまいりましたが、最後のテーマになります。市内の保育施設及び児童館の整備についてということで、以前議論していることに踏まえての説明でございますので、附馬牛保育園の整備を中心としたものとして子育て総合支援課からお願いいたしますが、まさに「子育てするなら遠野」というものをどのように形にするのかというプロジェクトであります。閉会予定時刻が迫っておりますが、みなさんのお許しをいただきまして、進めてまいりますのでお願いいたします。

○子育て総合支援課長

では、市内の保育施設と児童館の整備について子育て総合支援センターから説明いたします。この再編整備計画につきましては、市としての方向性を定めるため、総合教育会議でも、平成27年度に個別の施設ごとに説明したところでありますが、今年度におきましては、庁内協議を行いまして、位置付けしたものであります。

1番目ですが、保育施設の再編整備方針になります。全体の情報といたしまして、子どもの数も減少しており、乳幼児の減少と保育人数ということで、入所者数は実際子どもの数が減っていますが、入所している子どもの動向とすれば増えているということで、0歳児保育のニーズが高まってきたという傾向にあります。

2番目として、市内の動向を掲載しておりますが、減少傾向にあります。平成37年度までの10年以内に84人減少するという動向人数の状況にあります。

3番目の保育施設運営ですが、今年度から公立3園の分も合わせまして、遠野市保育協会が運営している施設が13施設、その他の私立保育園として岩手キリスト学園遠野聖光こども園の計14施設で運営してございます。

再編の必要と方向ということで要点として地理的条件を考慮するというので、5キロ圏内の施設については人口動向によっては分園、もしくは統合、それから小規模になって20人未満になるものについても、分園統合を考えております。

それから施設規模とすれば50人から150人の範囲内を適正として考えること、最終的に今までの子育て環境を踏まえた上で町ごとに子育てエリアの形成を図っていくことを考えまして、結論的には保育協会の13施設ある施設を10施設に再編統合の方向になると考えております。

その下に第二次総合計画における再編整備の骨子ですが、前期5ヵ年については平成29年度に附馬牛保育園の整備ですが、児童館の新設で合築を考えております。それから平成30年には鱒沢保育園の分園化、もしくは統合を検討しております。平成31年には綾織保育園の改築、平成32年には松崎保育園の分園化もしくは統合を白岩保育園

と考えております。

後期については、白岩保育園、達曽部保育園、宮守保育園、遠野保育園と予定しておりますが、前期の部分として、附馬牛保育園、綾織保育園の再編整備がございます。これについては後ほどご報告いたします。これを遠野市の図面におろしているような状態ですが、距離的な部分、施設の保育ニーズの部分を表にしております。減少が心配されている部分で、入所状況の表にありますが、平成28年度で鱒沢が7名になっております。

次に児童館と児童クラブの整備方針になります。児童館6ヶ所、児童クラブ5ヶ所ですが遠野市の児童館、児童クラブですが4タイプありまして、図案化して出しております。再編整備の方針として出しておりますがこれも前期後期と分けてだしております。前期につきましては附馬牛児童クラブを児童館として新たに保育園と合築すると考えてございます。綾織児童館の整備、保育所との連動もありますが児童館の活用について検討してまいります。その他、青笹児童館、土淵児童クラブの検討もございます。

ページをめくっていただいて、再編を想定した形でのパターンを個々の施設ごとに書いてございます。

次に、保育園と児童館全部含めた形の拡張単位のブロックで見た場合状況になります。朱書きの部分が手を加える部分、再編統合を図る部分となります。

次に、個々の整備ということで直近の附馬牛地区の子育て拠点整備についてですが、保育園を現在の場所から老朽化、急傾斜地ということで移転しなければならないということでしたが、旧小学校の低学年棟に移転をしまして、さらに児童クラブを合築するという図案を写真で示していますが、そのような形で進めているところでございます。地域の方々、保護者の方々に説明しておりますが、新たに合築ということで青笹の子育て村の例を取り、乳幼児から小学生まで分け隔てなく子どもの居場所を確保する、保育の場所を確保するという考え、説明会をしております。その中で整備については共有する遊戯室の取扱い他、特に夏休み冬休みの利用の工夫すればクリアできるのではないかと、これから保護者への説明に入りますが実際のレイアウトが決まってから別途お示ししたいと思います。

次に綾織地区の子育て拠点についてです。平成21年度に学びのプラットホーム特区の認定をいただきまして、中学校再編を経てきたわけですが旧中学校の特別教室を児童館に住民交流の場として活用してはということで検討してきた経緯がございます。これについては、現在の児童館もありますが、平成14年の建築で建物自体は十分活用できる状態にあります。保育園を保育協会の意向としても旧小学校のグラウンド側に移転改築を進めたいということであります。プラットホームの考え方についても、市長と語ろう会の意見を踏まえて第二ステージという地区センターと地区との計画の策定に合わせて再度検討してまいりたいと思います。

続きまして、土淵と青笹児童館の整備についてということで、先ほども出ましたが一つは土淵小学校の大規模改修が入ることから、地域の方からも児童館はどうかと声も聞かれましたが、この改修時期に合わせまして児童館の設置についても検討してまいりたいと思います。

青笹の児童館につきましても、狭くなってきているので、周辺の林業振興施設の活用も踏まえて、狭い部分につきましても、利用人数が増加する傾向にありますので、これについても検討して具体的な案として進めて参りたいと思います。

現在直近のところであれば、附馬牛の整備ということになります。これについて御意見等いただければと思います。以上です。

○市長

市内保育施設、及び児童館の整備についてということで詳細な資料の中で、一つは附馬牛の子育て拠点、綾織の子育て拠点、さらには土淵、青笹と今の保育所の現状はどうなっているのか。それから、児童クラブの現状を踏まえた説明でした。これは当然のことながら補助金を返還しなくてはならない、財源をどうするかという問題をクリアしていかなければなりません。このような計画の元に保育協会がどう具体化するかを密接な繋がりのもとに、地域住民の方々の理解のもとに進めていかなければと思っておりますので、ただ今の説明を受けての委員のみなさんの御意見、御提言をいただければと思います。

○崇委員

鱒沢保育園のことですが、将来的に統合と、利用人数を見ると仕方ないかと思いますが、親の立場からすると、保育園でお友達ができたのに小学校に行くときに離れ離れになってしまう。そうした場合に、親にとっていかがなものかなど。それについての対応はどのような考えでしょうか。

○子育て総合支援課長

これについては、協会さんに一年目でどうかと、鱒沢の保護者さんからも聞くと、少ない部分もやむを得ないがそこについては分園等想定したいということもあって、ただ、小学校との接続もありますので、その部分では保育環境の作り方は園でなくてもできると思いますので、地域の人を交えた分園もあるのではと。否定路線ではなく柔軟に話していけば納得できるのではと思います。

○崇委員

保育園のことだけではなく地域のコミュニティとしての連携もありますので、そこはきちんと議論した上で、考えてほしいと思います。

○角田委員

附馬牛地区の子育て拠点整備ということで、今回具体的な例が示されたので、地元の方も非常に、いつ整備してくれるのだという希望もあったということで、心待ちにしていたということで、保護者の中でも期待が高まっているようで、今回、旧小学校の校舎を使うということで敷地的にも余裕がある。グラウンドもありますので早期実現していただきたいということと、是非地域の方の意見を反映した形で進めていただきたいと思います。

○千田委員

附馬牛児童館ですが、保育所と合築とありますが、今青笹も確か合築のような感じだと思いますが、以前お聞きしたのは、時間によって体育ホールを自由に使えないという問題点もあると思いますので、それも踏まえて使いやすい良い児童館にしていきたいと思います。

保育所、児童館の設置というのが、これから学校の問題になると思いますが、子どもの取り巻く環境が地域で見守られるような、安心安全な「子育てするなら遠野」に繋がると思いますので、地域の方と話し合いながら進めていただければと思います。

○和子委員

これからの計画が示されたと思いますので、先ほどのお話があったようにいろいろ連携するところと調整して、これよりもより良いものにしていただきたいのが一つと、根本的に「子育てするなら遠野」と言ったときに施設だけでいいのかなと私はいつも思います。

施設を近くに集めたから何とかなるだろうではなく、人が動かなくてはならない部分がいっぱいあって、0歳児が保育園に預けられる率が高くなってきていて、小さいとき、子育てに関わる人が沢山いた方がいいと思いますが、最初の基本は家庭だと思っています。お母さん方が家庭で子育てをできる仕組みが根本にあるのではと、その後に建物がついてくるような計画を考えていただければ、より良い子育て支援ができるのではと思います。

○教育長

附馬牛保育園、児童館合築について、心配な意見も聞くことがありますので、これについて地域の方々と十分に意見交換を行い、お互い合意の上で進めていければいいなと思います。

○市長

これも大きなテーマであり、この通り進めるとなると財源をきちんと確保していかなければならないという中で、簡単ではないですがやらなければならない。今の子ども達が3歳、4歳、5歳。検討しているうちに小学生、中学生になってしまうわけですから、タイミングを失さない形で整備をしていかなければならない。「子育てするなら遠野」という抽象的な言葉ではなく、環境を形として示さなければならない、委員のみなさんから仕組みという言葉がたくさん出てきておりましたので、子育てするなら遠野支援本部長がおりますので、委員のみなさんの意見を聞いての本部長としてコメントをいただければと思います。

○子育て総合支援センター所長

本部長の多田です。附馬牛保育園の合築につきましては、みなさんから意見をいただきました。自由に使えなくなるのではという意見がありましたが、地域の保護者説明会、地域にも説明に上がりましたが、ここは今までどおり地区センターのホールも使えますし、今まで使えなかった園庭も使えるというような形で活動の幅が広がると私どもは考えております。

ただ、そこに働く方が必要だということで、その辺もやりくりしていかなければならないかなと思います。和子委員がおっしゃったように施設を建てればいいものではなく、子育ての基本は親だと思っておりますので、子育てを頑張っている方々に支援をしていくのだというのが、これからの「子育てするなら遠野」に必要なことと思っておりますので、今いただいた意見を、前向きに受け止めながらながら事業を展開していきたいと思っております。

○市長

保育施設及び児童館の整備については、委員のみなさんからも意見をいただきましたし、本部長からも総括的なコメントをいただきましたので、関係団体、保育協会との連携を、そして地域との協議をきちんとされなければなりませんので、鱒沢の問題も、崇委員から出ましたとおりにやっっていかなければならない。これを踏まえながらさらに議論を深めていき、一つ一つ形にしていくということで、総合教育会議における市内保育施設及び児童館の整備については、基本的なことについて概ね了解ということではよろしいでしょうか。

以上をもちまして、報告事項について3件、協議事項2件。長時間にわたり御意見をいただきました。

平成28年度、総合教育会議を4回にわたって開催し、協議を深めてきているわけですが、私なりに手応えを感じながら議論を進めさせていただいております。

こうして教育委員会のみなさんとの意見交換と関係部課、市民公開という中で進めさせていただいておりますので、市民のみなさんにも議論を受け止めていただい

る中で、市民協働、官民一体、まちぐるみで、まさに子どもたちにとって何が大事かということに重きをおいて進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願い申し上げ、第4回教育総合会議の方は閉じたいと思っております。

○教育部長

諸課題に対し、長時間のご協議ありがとうございました。以上をもちまして、平成29年度第4回遠野市総合教育会議を閉会いたします。大変お疲れ様でございました。

閉会 午後0時25分

会議録作成者 遠野市長 本 田 敏 秋

署 名 教育長

署 名 教育委員

署 名 教育委員

署 名 教育委員

署 名 教育委員